

1. 題材名 作って楽しく使おう ～世界に一つだけのもの～
2. 本時のねらい
・身の回りの布について調べ、布の特徴に気付くことができる。
3. 本時の展開

学習活動と児童の反応	教師の支援と評価 努力を要する子どもへの手立て
1. 身の回りの布製品を用途で分類しながら、本時の課題を確かめる。 ・トレーナー ・Gパン ・体育着 ・体育袋 ・給食袋 ・カーテン ・タオル ・ランチョンマット ・ハンカチ 布のひみつを見つけよう 2. 布のひみつの調べ方を、グループごとに話し合う。 ・肌触りをくらべてみよう。 ・引っぱったらどうなるだろう。 ・布を裁つとどうなるか。 ・折り目がつくだろうか。 ・水に入れるとどうなるだろう。 ・拡大して見てみたい。 3. それぞれの方法で、布の特徴を調べてみる。	・実物を見て考えられるように、身の回りにある布製品を用意しておく。 ・着る、物を入れる、敷く、水を拭き取る、日光を遮る等々目的を明らかにさせながら、いろいろな用途があることに気付かせたい。 ・ジャージ、デニム、帆布など、何種類かの生地で作ったハンカチを用意し、その肌触りを比べさせながら、使う目的にあった布があることに気付くようにする。 ・作りたい物が似ている子どもどうしでグループを作っておく。 ○インターネットTVを通して、調べ方のヒントを示し、足りない部分を補足する。 ・自分が作りたい物には、どんな素材条件が必要なのか考えさせることで、調べ方を焦点化させたい。 ・それぞれの実験コーナーを設定しておくことで、活動の効率化をはかるとともに子どもの主体性を促したい。
何通りかの調べ方をしながら、布の特徴に気付くことができる。 (学習シート、観察、発言)	
4. 調べて分かったことをまとめ、発表し合う。 ・よくのびる布やあまりのびない布がある。 ・拡大してみると、編んでいる布、織っている布がある。 ・肌触りがやわらかな布、堅い布などさまざま。 ・自分が作りたい物には、これがいいかもしれない。	どのような実験をしたらいいか迷っている場合には、自分たちが作りたい物に必要な素材条件を考えさせたり、教師も実験に加わったりする。 分からないことがあったら、三浦先生にも随時質問をするよう促す。 ○インターネットTVを通して、調べたことを補足し、次時からの製作に向けての意欲をもたせる。